

ぶら下がっている岩

墨、吉野和紙 軸装 143 X 50cm X 2 38 cm X 1 2015



ぶら下がっている岩 局部

《観照》において

クリスティーン・フリント・サトの作品では、
墨の滲み、余白、呼吸の痕跡が、
空間の中でゆっくりと知覚を生成していく。

《ぶら下がっている岩》に現れる形態は、
重さを保ちながら宙に留まり、
存在の境界を静かに揺らしている。

三幅のあいだに生まれる「間（MA）」は、
像を区切るための空白ではなく、
観る速度そのものを変化させる場として働く。

墨は物を描写するための素材ではなく、
時間、呼吸、沈黙の流れを可視化する媒体として現れる。

《般若心経》の
「色即是空 空即是色」の感覚は、
ここで物質と空間の境界をゆるやかに溶かし、
存在が生成し続ける状態を静かに浮かび上がらせている。

Christine Flint Sato's work unfolds through **diffusion, silence, breath, and spatial resonance**

In *Hanging Rock*,
forms remain suspended between weight and dissolution,
softening the boundary of presence.

The intervals between the panels function as *MA* —
a field that alters the viewer's rhythm of perception.

Ink emerges here as a medium of duration, breath, and awareness.

The Heart Sutra's sensibility of
“form is emptiness, emptiness is form”
appears as a gradual dissolution between matter and space.

在《観照》中，
Christine Flint Sato 通过墨的渗化、余白与呼吸感，
使知觉在空间中缓慢生成。

《ぶら下がっている岩》中的形态，
停留于重量与漂浮之间，
轻轻摇动着存在的边界。

三幅之间形成的「間（MA）」
改变了观看的速度与感知的节奏。

墨在这里成为时间、呼吸与空间流动的显现。

《般若心经》“色即是空 空即是色”的感知结构，
也在作品中化为物质与空间之间化为空间与存在之间缓慢浮现的感知。

Artist



Christine Flint Sato

ぶら下がっている岩

クリスティーン・フリント・サト

1955 - | United Kingdom | 奈良在住

墨アーティスト。

日本にて川邊禅華師に書を学び、

中国の芸術家・李庚に水墨表現を学ぶ。

日本と英国を中心に個展・グループ展を重ね、

墨の滲み、余白、線、呼吸を通して、

空間と知覚の生成を探ってきた。

近年は、

身体感覚、時間の流れ、呼吸、空間の変化とともに、

生成し続ける「空間の経験」として制作を行う。

また、

『Japanese Calligraphy: The Art of Line and Space』（1999）、

『Sumi Workbook』（2014）を出版。

nk artist based in Nara, Japan.

Her practice explores the emergence of space and perception through diffusion, line, breath, and spatial tension

Recent works unfold as evolving spatial experiences shaped by duration, breath, and bodily awareness.

墨艺术家，现居奈良。

长期通过墨的渗化、留白、线与呼吸，
探索空间与知觉的生成。

近年将水墨视为空间经验的持续展开，
感知、时间与呼吸在其中缓慢生成。

観照 KANSHŌ — Heart Sutra as Living Axis

般若心経と現代芸術

2026年5月26日 — 5月31日

kokoka 京都市国際交流会館
Reino-e Gallery Kyoto

www.reino-e.jp
info@reino-e.jp